

令和2年度調査研究に関して

1 研究員研究主題 情報活用能力を伸ばすための小学校社会科の授業改善
～ 一人一台のタブレット端末を活用して ～

2 研究概要

平成29年改訂小学校学習指導要領において、情報活用能力は各教科の学びの基盤となる資質・能力と位置付けられ、教科等横断的な視点での育成が求められている。本研究の目的は、情報活用能力を伸ばすための授業改善の提案である。学習過程において、一人一台のタブレット端末や思考ツールを活用し「主体的・対話的で深い学び」を目指す「New-KAL（新草津型アクティブ・ラーニング）」の視点に立った実践に取り組んだ。

3 研究の方法

- (1) 社会科における情報活用能力、タブレット端末活用についての意識調査を行い、実態把握をする。
- (2) 情報活用能力を伸ばすための授業設計をする。
- (3) 小学校2クラスの児童を対象に、タブレット端末を児童主体で積極的に活用するクラスと、教師が意図的に時間を決めて活用するクラスに分けて授業実践を行う。
- (4) 授業実践後、再度意識調査を行い、有効性を検証する。

4 研究の成果と今後の課題

研究の成果

(1) 思考ツールの活用

- ①学習計画を自分で立てることで、自分の課題に対する見通しや多面的なアプローチの仕方、進捗状況が分かり、主体的に学習に取り組めた。
- ②話し合う視点が明確になり、話し合いのゴールに向かって協働的に活発な意見交換ができた。
- ③思考ツールが使いやすい・分かりやすいと肯定的に感じた子どもが79%（4つのツールの平均値）もあり、子ども自身が「自分の考えが分かる」「自分自身の課題が分かりやすい」「たくさんの考えを一つにまとめやすい」など、思考の整理に有効だったと感じることができていた。

- (2) タブレット端末を児童主体で積極的に活用したクラスは、教師が意図的に時間を決めて活用するクラスに比べて、主体的・対話的で深い学びの過程の「課題設定」「情報の収集」「情報の整理・分析」「まとめ・表現」どの過程においても情報活用能力が高まったと自己分析した。特に一番高評価である「よくできる」と答えた子が増えた。また、タブレット端末を使うことで、友だちの考えがわかりやすいと感じたり、課題を解決する（自分の考えをまとめる）のに役に立つと考えたりする子どもが増えた。
- 良さが分かれば、自分でタブレットを使う時を選べるようになっていくはずである。

- (3) 各々が調べた特色ある地域の情報を整理することで、特色ある地域が人々に支えられているという「深い学び」につながり、「自分たちにできることはないか」と具体的に思考するところまで子どもたち自身の力でたどり着くことができた

- (4) 単元を貫く課題設定をすることで、ゴールが明確になり、他教科でまとめの表現をする活動が苦手な児童の意欲が最後まで持続するなど、学びに向かう姿勢に向上が見られた。

今後の課題

- (1) 本研究の指標はアンケートに頼りがちで、点数評価をあまり加味できていない。正確な分析をするためには情報活用能力を測る具体的な指標やテストを開発することが求められる。
- (2) 情報をまとめる活動では、相互評価がしやすいように明確なルーブリックを示すことが必要である。
- (3) タブレット端末をさらに活用するために、思考ツールのデジタル化、アンケート機能を使ったデジタルの振り返りができるよう、研究を深めていきたい。
- (4) 子どもとともに、タブレット端末で何ができるのか、何のために使うのかを考えていくことが大切。

地域教材（わたしたちの草津）の編集について

1. 今年度の取り組み

令和2年3月に発行した新しい地域教材（わたしたちの草津）と指導書を活用した授業実践の検証を目的として、7月・2学期中・1月と年間3回の会議を行った。（コロナ禍により例年より減少）

編集委員の先生方には、今年度、全面実施の学習指導要領に合った内容になっているか、問題解決的な学習にするためにはどのような課題設定をするべきか、というような視点で授業実践を行っていただいた。そして、その実践に基づいて指導書集の加筆・修正を行った。ver.2として各小学校の3年生に配布予定である。



2. 成果物

「わたしたちの草津」3年生用指導書 ver.2

草津市に初めて採用された職員でも「わたしたちの草津」を効率的に使う指導が行えるように、指導書をより活用しやすく、分かりやすくするために、以下のことを重点に見直した。

- ① 3観点に基づく評価基準の例を挙げ、指導と評価の一体化を意識できるようにする。
- ② 問題解決型の学習になるように、単元を貫く学習課題を設定する。（実際には、その課題になるように児童主体で話し合いながら決定していく。）また、本時の課題をなるべく疑問形にする。
- ③ いつも児童の手元に1人1台のタブレット端末があることを前提に、その具体的な活用方法を3人に1台の時よりも多く提案する。
- ④ コロナ禍により、見学などの校外学習が行えない場合の、指導例についても記述する。

6 話し合い活動のポイント

総地図を見て、分かったことや考えたことを話し合おう。

- ・地図をつなぎ合わせるによって、学校のまわり全体を視覚的に捉えることができる。各グループで作成した総地図を比較しながら考えさせることにより、「〇〇よりも車がよく通る」や「〇〇周辺は店が多い」などの発言が出てくるとよい。これが次の「草津市の様子」への学習へとつなげていくことができ、考え方のポイントとなるだろう。さらにそれらの理由を予想させると、「社会的事象の見方・考え方の育成につながる。

7 タブレット PC 活用のポイント

意見の交流

- ・多くの意見を一度に集約できるように、ムーブノートを活用して、お互いの意見を見ることができるようになる。今後の学習の視点となる土地利用についてキーワードとしておさえておくとよい。

ドリルパークで補充

- ・ドリルパークや、Web 上にあるドリルを活用して、地図記号や方位について繰り返し学ぶことができる。

プログラミング学習で補充

- ・Viscuit を使用して、地図記号が書かれたマークをタッチすると名称が表示されるプログラムを作り、クイズ形式で問題を解き合う。

発表時の活用

- ・可能であれば、地図に書き示した場所の写真（神社や駅など）を事前に準備しておき、提示しながら発表できると、よりその場所の様子を捉えることができる。

8 参考資料

①NHK for School の活用
動画やクイズが掲載されています。 電子黒板>社会 小3~4>わたしたちのまち
https://www.nhk.or.jp/school/dcontent/syakai_3_4nen/

4 主な学習の流れと活用の実際（9時間）

学習の流れ	活用の実際と指導のポイント
<p>つかむ・2時間</p> <p>①学校やまちにある消防設備について、知っていることを書き出し、話し合う。（1時間）</p> <p>火事からくらしを守るために、学校やまちではどんな工夫がされているのだろう</p> <p>火災報知器 ・非常口 ・防火とびら 消火栓 ・防火水そう</p> <p>②防災マップを使って、学校の近くにある消防設備を確認する。（1時間）</p> <p>学校のまわりにはどんな消防設備があるだろうか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・火災を防ぐために、どのような工夫がされているかについて、学校やまちにある消防設備などをノートに書き出し、グループで話し合う。 ・学校にある火災報知器や非常口、防火とびら、まちにある消火栓などの役割を知る。 <p>ワークシート①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内にある消防設備を実際に見る。（避難経路図、消火器、消火栓箱、避難救助袋…） <p> 見つけた設備を記録する →発表・まとめに活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災マップを使って、学校の近くにある消防設備を確認する。（消火栓・防火水槽・避難所など） <p> 学区防災マップの活用</p> <p>ワークシート②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家の周りにおける消防設備、家の中にある消防設備を探して記録する →報告・まとめに活用 <p>【主】身近な消防設備を調べることから、火事や災害からくらしを守るための工夫について関心を持ち、学習課題を考え、単元の見通しを持つとしている。</p> <p>【知技】学校における消防設備を白地図にまとめるとともに、どのような備えがあるか読み取っている。（白地図、発言、ノート）</p> <p> 火事や災害からくらしを守るためのくふうには、どのようなものがあるのだろう。消防署の働きや、自分たちや家族でできることをよびかけるポスターを作ろう。</p>
<p>調べる</p> <p>①草津市で起こった火災とその原因について考える。（1時間）</p> <p>火事はどうして起きるのだろうか？また、火事が起きたときどうすればいいか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちの草津p34の資料を見て話し合う。 ・話し合ったことをもとに、火事を防ぐにはどうしたら良いのか、火事を見つけた時にはどうしたら良いのかを考える。（消火器の使い方を知る。119番通報の仕方を知る。←教科書p98）

3. 来年度に向けて

新しい地域教材（わたしたちの草津）は3年間分しか製本されていない。来年度は、3、4年生が実際に活用した授業実践例を集めながら、部分改訂の準備を始めていきたい。できるだけわかりやすく新しい資料を掲載できるように、来年度中に、統計資料や写真等を収集する予定である。その際、より問題解決的な学習に導けるような紙面構成を考えていきたい。